はじめに

東京大学大学院教育学研究科・学校教育高度化センターでは、学校教育高度化推進に関する研究プロジェクトを実施しています。2010, 2011年度の 2 年間は、「学校における新たなカリキュラムの形成：次の学習指導要領改訂を展望して」をテーマとした公募型研究プロジェクトを実施し、今年はその2年目になります。

今年度からは新たに、科学研究費補助金基盤研究 A「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーションの理論的・実践的研究」（通称イノベーション科研）が採択され、本センターを中心として研究に取り組むこととなりました。このイノベーション科研は、上記「学校における新たなカリキュラムの形成：次の学習指導要領改訂を展望して」をもとに、それを発展させて、新たなカリキュラムの形成を「カリキュラム・イノベーション」として概念化しようとするものです。特に、アカデミズムにおける学問体系を高校・中学・小学校へとおろしていくように構成されていた従来の教科カリキュラムの構造を転換し、職業や政治経済を中心とする市民社会生活との関連（社会的レリバンス）を有するカリキュラム（社会に生きる学力形成）を構想しようとする点に、その特徴があります。

そこで、今回の公募型研究プロジェクトも、大学院生を対象として、院生がカリキュラム・イノベーションへ向けての研究フロンティアを開拓する担い手となることを期待して、研究科内で公募をしました。その結果、大学院生グループ7件を採択し、2011 年 6 月から 2012 年 2 月までの 9 ヶ月間研究を行いました。その成果が、以下の研究報告です（なお、プロジェクトに参加した院生のうち日本学術振興会特別研究員 DC については、研究費の受給と成果発表義務を定めた日本学術振興会の規定に則り、本プロジェクトの研究費受け取りを辞退し、あわせて、特別研究員であることを明記してあります）。

取り組まれたテーマは多様ですが、どの研究も教育そのものの組み替え、カリキュラムのイノベーション（革新）に迫るという点で共通の志向性を有しており、教育学の学としての存在根拠を問い直す可能性を秘めた意欲的な研究が行われたと判断しています。

これらの研究報告について忌憚のないご意見・ご感想をいただければ幸いです。

2012（平成 24）年 3 月

学校教育高度化センター長　小玉重夫